

りゅうじょうじ しらふじ  
瀧上寺と白藤



浄土真宗の寺。親鸞に帰依した聖空が承元2年(1208)に創立。建物は2度の被災後、江戸時代前期に再建。境内には樹齢300年ともいわれる紫と白の藤が、4月下旬～5月中旬、藤棚を美しく飾り、甘い香りを漂わせる。

## 銚子の淵のガタロ

奈良県のほぼ中央、吉野郡下市町の善城に瀧上寺という古刹がある。白壁塀に門、本堂、鐘楼、書院などが建つ立派なお寺だ。お寺の前は、ゆるやかな棚田が続き、その向こうは低い丘陵が三方を囲んでいる。春の透明で暖かな光が溢れる、静かでのどかなところである。

お寺の西側を流れる秋野川。流れは吉野山の青根ヶ峰から北へ下り、下市で吉野川に合流する。

実は、この川の、瀧上寺前の道近くにある小橋からやや下ったあたり

が、なにやら神秘的な場所なのだ。さほど広くない川幅ながら、川床、堤に驚くほどの巨岩が累々と続き、その間を縫って川が右に左に曲がり、小さな滝となって逆巻くように勢いよく流れている。白い飛沫が泡立ち、ザアザアと岩を打つ水音が激しく響く。その上には、堤から伸びた幾本もの大樹が枝葉を大きく広げてその流れを覆い、昼間でも薄暗い。

昔、瀧上寺の本堂裏の銚子の淵(口とも言われる)に、一匹のガタロ(カッパのこと)が住んでいた。川へ遊びに来た子供たちの手足をもつて引きずり込んだり、吸い付いたりしていたずらをした。だから、付近ではこの淵には近づかないよう言われていた。

和尚さんは「こいつめ！」と言い、その手を握って離さなかった。すると、「私はこの裏に住むガタロです。もういたずらはしませんから、勘弁してください。その代わり、よく効く傷薬を教えます」と言ったので、和尚さんは手を放してやった。

明治のはじめころまで、瀧上寺で造り売られていた傷薬はこれだと言いつた。

そういえば、お寺の本堂裏の銚子の淵。いかにも、いたずら好きのガタロが住んでいそうな、そんな気になせられる不思議なところである。

ある晩、瀧上寺の二十二世、恵貞和尚が便所へ入った時、突然、氷のような冷たい手で尻をなでるものがあった。

和尚さんは「こいつめ！」と言い、その手を握って離さなかった。すると、「私はこの裏に住むガタロです。もういたずらはしませんから、勘弁してください。その代わり、よく効く傷薬を教えます」と言ったので、和尚さんは手を放してやった。

### 銚子の淵(口)



瀧上寺の裏。兩岸から岩石が迫り、秋野川の水が銚子の口からこぼれるように流れ落ち、景勝をつくっている。

「銚子の淵」が近くにある瀧上寺へは…  
 【電車の場合】近鉄吉野線下市駅より奈良交通バス「善城口」下車すぐ  
 【車の場合】橿原市から国道169号線(大淀町経由)、国道309号線を天川方面へ



◎下市町情報システム課  
 ☎0747・52・0001